

## 創業120年の老舗が一番大切にしているものとは

TOMA コンサルタンツグループは、グループ創業120年を超える総数 150 名の総合コンサルタントファームです。継続する企業の成幸の秘訣を、藤間秋男代表取締役理事長に伺いました。

Q：経営理念について教えてください。

A：TOMA コンサルタンツグループ（以下 TOMA）の経営理念は、「明るく・元気・前向き」な TOMA コンサルタンツグループは、本物の一流専門家集団として、社員・家族とお客様と共に成長・発展し、共に幸せになり、共に地球に貢献します”です。社員・家族、お客様は等しく大切ですが、お客様の前に社員・家族をいれています。これは、社員に目標・やりがいを与え幸せにすることが、お客様を幸せにする一番の近道になるという考えに基づいています。経営理念の中で家族という言葉は最近入れました。働き詰めの社員を見て、社員がワークライフバランスを考えて家族を守って欲しいという思いをこめて追加しています。理念は唱和すると、理念どおりの行動になっていきます。理念に家族を追加した結果、社員が早く帰るようになりました。社員が過酷な労働で、仕事をやらされている感覚でお客様に接すると、やらされた感が伝わります。社員を大切にすることはお客様を大切にすることに繋がります。

Q：今月号のグッドモーニングのテーマは「運命自招」です。倫理を学ぶ皆様にお伝えしたいメッセージをお願いいたします。

A：行動がないところに成功はありません。人生は選択の連続であり、そのときに私は常に前向きなほうに進んでいます。進んだ先には失敗も成功もありますが、両方とも忘れます。“経済と経営は別”という松下幸之助さんの言葉があります。どんな業界でも打つ手は無限で、打ち続ければ必ず利益は出ます。利益が出ないのを人のせいにはしません。思いが利益を生み出しています。会計事務所を設立して最初の10年は順調に人も売上も伸びていきましたが、次の10年が並行線をたどりました。そのような状況に面したときに、私が尊敬する木野親之先生と出会いまして、頂いた言葉がこれまで伸び悩んでいた会社経営をガラッと変えました。松下幸之助さんは“経営理念が確立できれば、その事業は半分成功したようなものや”とおっしゃられたのを受けて私は今までであった経営理念を必死になって3年かけて見直しました。そして経営理念を社内に浸透させていったのです。経営理念を社内に掲示し、朝礼・会議で唱和し、評価にも加えました。そうした結果、社員の定着も良くなり、売上や規模もどんどん伸びていきました。これは、私が教えをいただいたときに行動に移したから達成したことです。赤字経営者の方々と会うと“やろうと思っているけどできない”という言葉をいただきます。実際に行動することが成幸への一歩ではないでしょうか。



Q：ホノルルマラソンを5年連続、5回、しかも社員の皆様と完走、完歩されたと聞いております。はじめられたきっかけや、マラソン中のエピソードなどを教えてくださいいただけますか？

A：Fortune 誌にて働き甲斐がある会社の定義は“社員が経営者、管理者を信頼し、一緒に働く人と連帯感を作る”ことであると記載があります。これを受けて、社員同士と一緒に走ったという連帯感を作るために実施しています。きっかけは、ホノルルマラソンを下駄で走ることでも有名なゲッターマンとの出会いです。ゲッターマンに、この体で走って大丈夫かときいたところ、できると言われて実践をしました。人生はマラソンですが、経営はマラソンではなく、駅伝です。たすきリレーでつながります。老舗の経営者たちは“いい状態にして次にバトンタッチ”と仰います。私はどうやったら社員を幸せにできるかを常に考えています。社員の幸せは“一流専門家として家族と明るく前向きに生き続ける”ことであると考えています。私たちはまだ成幸していません。成幸を目指しています。成幸を目指している自分がそこに向かっていくのが一番の幸せだと考えております。社員には、社長のため、会社のためではなく、社員・同僚のため、お客様のため、地球のために働いていただきたい。私の使命は、曾祖父から続いた TOMA グループを 1000 年続くグループにすることです。

### 〈インタビュー後の感想〉

経営理念である“明るく、元気、前向き”を体全体で表現している藤間社長。常に人の幸せを願い、実践をしている思いがあふれるインタビューでした。貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

（文：照沼慎吾広報委員／写真：安永法行広報委員）